

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0392100129		
法人名	株式会社 介護いわて		
事業所名	グループホーム 和や家くずまき		
所在地	〒028-5402 岩手県岩手郡葛巻町葛巻29-34-4		
自己評価作成日	令和2年10月31日	評価結果市町村受理日	令和3年1月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>豊かな自然に囲まれた静かな立地環境にある。事業所独自の理念に掲げている「共に笑い共に生きる」をモットーに、職員と利用者が信頼関係を築き、互いに支え合いながら安心して日常生活を営んで行ける事業所作りに努めている。</p>
--

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action\\_kouhyou](https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

林や田に囲まれた自然豊かな地にある開所5年目の町内唯一のグループホームである。周辺には保育園や小学校、農村センター等があり、開かれた事業所として、園児の来所、小学校の運動会、学習発表会の見学など、地域との世代間交流が活発に行なわれている。事業所の理念を「共に笑い 共に生きる」とし、利用者と職員が共に笑いのある和やかな生活を送るため、食事は昔食べた懐かしい料理を利用者から教わりながら一緒に作るなどしている。例年の敬老会では、家族を含め多くの方が集まりお祝いをしていたが、コロナ禍により今年は事業所内だけで行った。その際、職員が披露した大黒舞は利用者から大変喜ばれ、思い出の一日とすることが出来た。法人内の他の事業所と連携し「重度化(看取り)指針」を制定するなど、利用者・家族の願いに応えようと前向きに取り組んでいる事業所である。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和2年12月1日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 ○ 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている ○ 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが ○ 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「共に笑い共に生きる」を事業所独自の理念と定め、全職員が共有し日々の実践につなげている。利用者、職員が支え合いながら生活を営んで行く事の大切さの意が込められている。	開所2年目に全職員で決めた理念「共に笑い共に生きる」をホールに掲示し、職員に十分周知されている。職員は、利用者の共同生活者として、笑顔で利用者の心に寄り添いきめ細かな支援を行っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、地域や小、中学校との交流が出来ず残念な一年となったが散歩途中に出会った近隣住民の方に声を掛けて頂く場面があり、貴重な時間となった。	町として最初の認知症対応型グループホームで現在も唯一の事業所である。自治会に加入し広報紙や行事パンフレットを地区民に配布し、開かれた事業所運営を行っている。例年、保育園・小中学校・町内会等との交流が活発に行われているが、今年はコロナ禍のため見合わせている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議や自治会を通して、困ったことがあったり悩みがある場合には気軽に相談出来る場所として声を掛けて頂くようお願いしている。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は新型コロナウイルス感染防止のため、書面開催としている。意見や感想を気軽に書いて頂けるようにフリーページの用紙を同封し、資料を配布している。意見を頂いた場合にはサービス向上に活かせるよう努めている。	自治会長、民生委員、町健康福祉課職員、町社会福祉協議会職員、町議員で委員が構成され、町唯一のグループホームへの期待は大きい。詳細に記された資料を用意し、各委員からは行事や災害対策等について様々な意見が出されている。今年はコロナ禍のため書面開催とし、フリーペーパーで意見等を求めている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	葛巻町役場を訪問時に声を掛けさせて頂いている。協力関係が築けている。	町健康福祉課の担当者が運営推進会議に委員として参加しており、会議録を役場へ持参し顔を合わせる機会も多く、相互の信頼関係が築かれている。地域ケア会議で情報交換や困難事例の検討にも加わっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の月例会議や運営推進会議の場を利用して身体拘束委員会を開催し、身体拘束をしないケアが正しく行われているかの確認を行っている。職員は「身体拘束ゼロへの手引き」等をもとに正しい理解に努め身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束適正委員会は管理者、主任、ケアマネで構成され、3ヵ月毎に開催されている。月例会議の場で研修を行い、身体拘束をしないケアに対する理解を深め合っている。言葉による行動抑制は職員同士で声掛けし合いながら、適時管理者が指導している。	

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	スピーチロックを含め、利用者への対応が適切であるかを月例会議等で話し合いを行っている。虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員が権利擁護に関する知識を得るまでには至っていない。必要な時には適切に支援出来るようにしていきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	書面で確認しながら丁寧に説明をし、理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の日常の様子を少しでも多く知って頂きたいと思い、個人通信を作成し家族に送る等、意見や要望が気軽に言える関係作りに努めている。毎日の会話の中で利用者の要望等を引き出せるように工夫し反映させている。	日々の会話から利用者の声を汲み取り、家族からは面会来所時に伺っている。コロナ禍のため面会制限中で、ホームの様子は2ヵ月毎に発行する個人通信で家族にお知らせしている。食べ物、外食、買物に関連する希望が寄せられることが多く、可能な限り対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員全員参加の月例会議の場を設けており、職員からの意見や提案を聞いている。	職場は何でも話せる雰囲気があり、月例会議や委員会等で利用者の暮らし方や、行事など多くの意見、提案が出されている。冬場の洗濯物の干し場確保や施設内外の美化の提案があり、提案を活かし改善している。予算を伴う事項は本部と協議するが、それ以外の修繕などは事業所の判断で対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が働きやすい環境作りに努めており、個々の意見も言いやすい環境にある。職場環境、条件の整備に努めている。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修への参加の促しや、月例会議での社内研修を行っている。働きながらスキルアップ出来るよう、実務者研修の補助も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型サービス協会に加入しており、情報交換している。今年度は、包括支援センター主催の情報交換会や勉強会に参加する機会はほとんどなかったが、機会があれば参加し、ネットワークづくりが出来るよう努めている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	生活歴を理解し、本人の要望や不安な事を話しやすいように声掛けを行い、安心して生活できる関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会時や電話での状況報告時に要望、意向、思い等を聞き信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の必要としている支援を把握し対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人のペースに合わせ、掃除や洗濯物をたたんだり等出来る事を一緒に行いながら支え合い、生活を共にする者同士の関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族と本人の関係を理解し、本人を支えて行く関係作りをしている。二か月に一回、和や家通信と利用者個人の通信を作成し、家族へ郵送している。		

令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため、地域のボランティアの方々の訪問はなく、一時は家族との面会も制限せざるを得ない状況で施設内で過ごす時間が多かった。数回ではあるが、馴染みのある葛巻町内のドライブを楽しんで頂いた。	利用者の馴染みは生活歴や家族からの情報で把握し、家族の協力を得ながら取り組み、関係継続に努めている。感染防止のため面会や外出が制限される状況にあるため、スマートフォンを介した面会を行い、家族、知人との繋がりを大切にしたい支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が笑顔で会話ができる様に、時には職員も座る位置に注意を払いながら間に入り支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院の為退所となった際も状態確認等連絡を取りその後についても相談、助言等の支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を通して本人の意向を把握出来る様に努めている。困難な場合には、これまでの生活歴を把握した上で検討している。	利用者との日々の会話や生活歴、家族からの情報を基に思いや意向の把握に努めている。言語表出が難しい方には、表情や仕草が普段と違った場合には、職員が話しかけることにより思いを探るように努めている。把握した情報はケース記録で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人と家族から聞き取りを行い、入居後は本人、家族との会話を通して把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日常生活の中でそれぞれ観察を行い、観察状況を記録し職員間で情報共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当職員が中心となり、朝の申し送り時や月例会議を活用し、問題点を検討しながら介護計画を作成している。三か月に一度計画の評価を行い、家族の要望、医師の指示や看護師の助言等も計画に反映している。	居室担当者がアセスメント、モニタリングを行い、ケアマネが、3ヵ月毎のカンファレンスでの話し合いを受け、更に家族や医師、看護師からの情報を加味して、プランにまとめている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常生活の会話の中での行動や言動等、気になった事を申し送り時に報告している。また、申し送りノートも活用し、情報共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者個々の趣味、趣向、家族関係等把握した上で安全可能な限り支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	利用者の病状、生活面での変化により他医療機関、介護施設、行政に可能な範囲で情報提供又は相談し、利用者が生活を楽しまれる様支援出来ている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の状態や意向を理解した上で支援出来ている。また、一ヶ月に一度の訪問診療の際、日常生活情報やバイタル測定値等を報告しており、かかりつけ医と事業所の関係も築けている。	利用者の多くが国保葛巻病院で受診している。葛巻病院の医師が毎月来所し、訪問看護ステーションの看護師も毎週来所しており、利用者、家族の安心感は強い。日々の健康管理は看護師資格を有する職員が行っており、医療と介護の連携が図られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションと連携している。状態に変化がある時は訪問看護に報告するなど、相談出来る体制が出来ている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	葛巻病院に関しては、地域連携担当職員と連絡を取り情報交換を行っている。他医療機関に関しては、受診日に状態報告のFAXを送り、情報提供を行いながら病院関係者との関係作りを行っている。		

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族の意向を確認しながら支援して行きたい。 急変時の受診先や終末期を迎えた時の意向確認について家族から聞き取りを行っている。	看取りの経験はないが、看取りを含む重度化に関する指針を昨年作成し、利用者、家族に説明し同意を得ている。重度化した場合、家族へ説明し意向を確認し対応することになっている。訪問診療を受診し、看護師資格のある職員も在籍していることから、看取りに向けた教育体制は整っている。	他事業所の事例にも学びながら、葛巻町唯一の認知症対応事業所として、利用者、家族の願いである「生活の場での終末期(看取り)対応」に取り組まれる事を期待します。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	社内研修として、消防署員による救命救急講習を職員全員参加のもと、行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災想定避難訓練を年二回行っており、近隣住民の協力を依頼する等、協力体制構築に努めている。また自然災害想定避難訓練も年二回行っている。今年度は、避難準備情報が出され避難をした際の問題点について検討も行った。	地域住民の協力も得てこの3月11日に避難訓練を実施済みである。ハザードマップで危険地域外とされているが、事業所独自に水害等の自然災害対策を立てている。災害時用に3日分の食糧、水と自家発電機等を備えている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助、入浴介助時はプライバシーを損ねない様な声掛けを行っている。個々に合った声掛けを職員間で共有している。	利用者一人一人の「ありのままの姿」を受け止め、それぞれの良い点を見出し、人として尊重することを基本としている。何事もその場で否定せず、無理強いしない介護に努めている。トイレや入浴の際は、羞恥心に配慮した介護に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の希望を聞き、自己解決出来る工夫と声掛けを行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	自分のペースでゆっくり生活して頂いている。日々のレク活動や作業の内容等、提案させて頂いているが無理強いにならない様支援している。		

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時や行事に参加する際化粧をしたりおしゃれをして頂き、華やいだ笑顔を見せて下さっている。必要な方には声掛けをする等、支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日々の会話の中で食べたい物の希望を聞き、献立に活かしている。畑での野菜の収穫や調理も一緒に行い後片付けも手伝って頂いている。	職員は交代で献立作成、食材の購入を行い、利用者の好みを聞き、栄養バランスを考慮しながら調理している。利用者は野菜の皮むきや盛り付けに参加している。菜園で収穫した茄子、胡瓜、トマトなどを食材にしたり、利用者から昔食べたおかずを教わりながら作り、楽しい食事の時間に行っている。行事食としての花見弁当、食の日のお寿司、焼肉などは利用者の楽しみである。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事摂取量、水分摂取量を観察記録している。利用者の好みに応じ、コーヒーやお茶等を提供している。水分を摂って頂けない方にはゼリーを提供する等の工夫をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けを行い口腔ケアを行っている。自分で出来ない方には義歯の洗浄等の支援を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	必要な方にはトイレ誘導の声掛けを行い、自立に向けた支援を行っている。リハビリパンツ、尿取りパッドは排泄量を観察しながら個々に合った物を使用している。	自立しトイレを利用する方は4名、2名の車椅子の方には介添えをしている。日中は全員トイレを利用出来るよう、必要な時には声掛けや誘導を行っている。居室でポータブルトイレを使用している方が2名いる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食材の工夫と体操やレクリエーションで身体を適度に動かす様工夫をしている。水分摂取量の観察を行い少ない方にはゼリーを提供する等の工夫をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	あらかじめ入浴予定はこちらで決めさせて頂いている。希望がある時は希望に沿った支援をしている。	入浴は月・水・木・土の午前中とし、週2回の入浴を原則としている。車椅子の方はシャワー浴も取り入れている。入浴中はゆっくりと寛ぎながら、職員との会話を楽しんでいる。入浴を嫌う方には、得意な民謡の話をして誘っている。	



令和 2 年度

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

2 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	休みたい時には声掛けを行い、安心して休める様居室で休んで頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤情報ファイルを作成している。個々の利用者の内服薬についての副作用、注意点等の理解に努め支援している。状態変化を確認した際は、訪問看護ステーションと情報を共有し、支持を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	カラオケ、トランプ、散歩等個々の好きなこと、出来る事を把握し楽しみながら気分転換出来る様な支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	今年度は、新型コロナウイルス感染防止のため例年行っている外出の行事や、個々の外出支援も全く行えなかった。施設近隣の散歩をする事で、季節を感じたり気分転換が出来る様支援に努めた。	感染防止のため外出の機会が少なくなっているが、穏やかな日は短時間でも近くの保育園まで散歩したり、菜園で野菜や花の栽培、収穫を楽しんでいる。車から降りないでドライブを楽しむことでも、気分転換、ストレス解消に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で管理出来ない方でも欲しい物がある時は買い物が出来る様、ご家族より了解を得ている。買い物日に欲しい物があるかを聞き取り、支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望を受け、支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	配慮している。利用者と職員とで作った花を飾ったり、季節ごとに壁に飾る貼り絵やホールの装飾をつくり替え季節感を味わえるように工夫している。	広いホールは天窓から自然光が注ぎ、明るく開放的でテーブル、椅子、ソファが配置されている。蘭などの鉢が置かれ、壁面には手作り作品や行事写真、絵画が飾られ潤いを感じさせる。加湿空気清浄機、エアコンで適温等が保たれ、利用者は日中殆どの時間、ホールの思い思いの場で過ごしている。	

令和 2 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 和や家くずまき

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来ている。利用者は居室やホールの好きな場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾ったり、行事や家族の写真を飾り居心地の良い居室作りに努めている。自宅から馴染みの物を持って来て頂いている。居室のベットの配置の工夫を行ったりと心地良く、くつろげる様工夫をしている。	ベッド、チェスト、エアコン、加湿空気清浄機が備えられている。居室入口には、職員手作りの表札に色別の装飾短冊が飾られている。利用者は各自馴染みの小物やぬいぐるみ、位牌、テレビなどを持ち込み、それぞれに和やかな居室にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所等、大きく見やすい文字で表示し、利用者の自主的な行動の妨げにならない様工夫している。		